第３回思いきり遊ぶ親子交流施設基本構想検討市民会議　会議録

開催日時	令和８年 10 月 22 日(水)午後６時 00 分～午後８時 00 分
開催場所	上郷公民館　２階講堂
出席委員	中山勇魚、佐々木宏幸、秋廣まどか、池田章子、市岡睦月、伊東正晴、 北村崇綱、熊谷太三郎、黒河内智子、桑原利彦、氣賀沢公彦、小林孝至、 小松勝彦、坂井公淳、坂井俊輔、澤柳紀子、塩澤章男、塩澤哲夫、 諏訪結芽子、竹村信之、多田政司、田中秀彦、外松秀康、中本知沙、 野口心暖、壬生江美、矢澤日和、吉本富美子
欠席委員	小笠原このみ、杉山美歩、竹村朋香、樋口昭三
出席職員	飯田市長 佐藤 健、こども未来健康部長 山﨑由紀恵、 こども課長 筒井孝治、子育て支援係長　植松一成 子育て支援係　宮嶋奈保子、代田修平
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　意見交換（グループワーク） (1) 前回の振り返りと(仮)基本理念について (2) 場所の役割、対象・状況・空間等について (3) コメント ４　事務連絡 ５　閉会

１　開会

○部長　それでは定刻になりましたので、ただ今より、第３回思いきり遊ぶ親子交流施設基本構想検討市民会議を開催いたします。市民会議の進行を務めさせていただきます、こども未来健康部長の山崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて進めさせていただきます。まず、本日、小笠原委員、竹村委員、樋口委員から欠席、澤柳委員から遅刻の連絡がありましたので、ご報告させていただきます。それでは初めに、飯田市長より皆様にご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いいたします。

２　あいさつ

○市長　皆さんこんばんは。本日も大変お忙しい中、親子交流施設の基本構想検討市民会議にお集まりをいただきましてありがとうございます。また、中山さん、佐々木先生にはご出席いただきましてありがとうございます。

この検討会議ですが、第１回の際に中山勇魚さんからの基調講演をいただき、また意見交換もいたしました。前回は、それぞれのグループに分かれていただきましてグループワークをしていただいたわけですけど、今日は基本理念のたたき台としてお示しをしたものを見ていただきながら、どんな空間にしていくのか、基本理念についてグループワークで議論していただきたいと思います。

この会議では、基本構想を検討していくことをミッションとしておりますので、そこに向けて本日は非常に重要な会、いずれの会も大変重要ですが、今日は特にその基本理念についての議論ということになりますので、非常に重要なグループ議論となります。それぞれのグループで、お互いの意見を尊重しながら、ぜひ議論を深めていっていただきたいと思います。また、中山さん・佐々木先生にはコメントをいただきながら、今日の議論の深まりについて手助けしていただければありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○部長　ありがとうございました。本日の会議は 20 時終了を予定しております。会議のスムーズな進行にご協力をお願いいたします。

３　意見交換

(1) 前回の振り返りと(仮)基本理念について

○部長　それでは続きまして意見交換に入ります。本日は、大きく２つのテーマについて意見交換をしていただきます。一つ目は「前回の振り返りと仮の基本理念について」、

二つ目は「場所の役割、対象・状況・空間などについて」を意見交換していただきます。一つ目のテーマ「前回の振り返りと仮の基本理念について」各班で意見交換をしていただき、その後発表していただきます。各班の思いを共有した後、二つ目のテーマに入るという流れで進めてまいります。

それでは、「前回の振り返りと仮の基本理念について」配付資料に基づきましてこども課長よりご説明をさせていただきます。

○課長　皆さんこんばんは。飯田市こども課の筒井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、前回から時間が空いてしまいましたので、少しおさらいをさせていただきます。資料１をご覧ください。

前回の会議では３つの班に分かれ、「今何が変わっているのか」「これからも大切にしたいこと」「どんなこども時代を過ごしてほしいか」について議論いただきました。背景については、「ルールや決まり事が多いのではないか」「遊ぶ機会が減少している」「親子ともに忙しい」などの意見が出されました。

こどもたちに対する思いとしては、「自ら選択し、失敗を恐れずチャレンジしてほしい」「時間を気にすることなく、夢中になって体験してほしい」「過度な管理から離れ、のびのびと過ごしてほしい」「年齢や学校を超えて様々な人に関わってほしい」との意見が出されました。

親や地域の方への思いとしては、「孤立することなく、気を使わずほっとできるようにしたい」「地域の人と人との繋がりができる場所に」と整理しました。
このような議論を受けて、基本理念の案を考えました。

資料２をご覧ください。
『「やりたい！」が動き出す～楽しいから広がる　挑戦・体験・であい・つながり～』
少し解説させていただきますと、第１回目の中山さんの講演の中で、遊びとは自身がやりたいと思うことであると教えていただきました。自らやってみたい、やってみようという気持ちを大切にしたいと思います。そして、自らやりたい、やってみようという思いから楽しさを感じることができ、その楽しさは新たな体験や挑戦に繋がる。また、自身の体験や挑戦の場だけではなく、様々な人と関わる関係が持てる。人と人とが繋がることで、ますます楽しさが広がっていくという意味を込めています。

この後、第２回市民会議、グループワークで議論したことの振り返り、そして今私が申し上げた仮の基本理念についての感想や、こうしたらもっと良くなるのではないかということを、まず皆さんに考えていただき、グループの中で共有・意見交換をしたいと思います。４つの班に分かれて進めていきたいと思います。各グループに職員がつきますので、進行へのご協力をよろしくお願いいたします。私からは以上です。

○部長　それではこれより意見交換に移りたいと思います。時間は 15 分間です。時間になりましたら職員が合図をいたします。それではこれから各班に進行役の職員がつきますので、グループワークを始めていただければと思います。よろしくお願いします。

（グループワーク実施）

グループワーク発表

○部長　それでは各班から発表をお願いしたいと思います。発表はその場で立っていただいてお願いします。それでは１班からお願いします。

○１班　１班です。第２回市民会議の振り返りの中で、特に共感した思い・大切にしたい思いとして、まず一つ、人との交わり・繋がりを大事にしていきたいという話が出ました。ただその中で、人との繋がりを持つための外遊びや、スマートフォン以外の娯楽の減少はどうしても気にかかるというところで、昔自分たちもそうだったように、こどもたちが近しい年代の子たちといっぱい遊んで、ふとしたときに思い出せるような記憶に残るものができていったらいいよね、という話になりました。

基本理念については、「やりたい」という要素が強く打ち出されているところが良いと感じました。そして施設を作っていく中で、飯田らしさって何だろうとか、飯田を愛するという思いも、その施設で遊んでいる中でつかんでいけるような場所になったらいいなという話でした。

色々な話が出たんですが、いろんな班のメンバーが集まり、前回とは違うメンバーになっても、皆さん考えていることが近しかったので、全体として一つの方向を向いて取り組んでいけたらいいかなと考えました。以上です。

○部長　ありがとうございました。続いて２班、お願いします。

○２班　それでは２班の発表をさせていただきます。この時間の中で、２班の中では、大人の視点で考えるのか、それともこどもの視点で考えていくべきなのかというところに時間を費やしました。あまり多く書くことができなかったんですけど、ここに書いてあることをお伝えすると、振り返りとして、共感したい思いとしては「体験・繋がり」「多様性と安心して過ごせる場所」「存在を受け入れて自分らしくのびのびと過ごせる場所」が挙がりました。

基本理念については、「初めての出会いに繋がる場所」、また大人の目標ではなく、こどもたちがどうなりたいかというところをしっかり考えていく必要があるのではないか、という話が出ました。

総じて、この場所はこどもたちが「やりたい！」ということを大人がサポートするという場になっていけたら、我々としても嬉しいですね、というところで話がまとまりました。２班からは以上です。ありがとうございます。

○部長　ありがとうございました。続いて３班、お願いします。

○３班　３班です。振り返りのところでは、「わくわくする体験」、そして「また来たい！」という体験ができるという点が、まとまった意見として出ました。それから地域・年代を超えた繋がりや関わりについても、みんな振り返って、良いと感じているところが多くありました。

それから、「わくわくする体験」。これがずっと繋がっているんですけど、挑戦できる環境ができるところが良いのではないかという意見もあり、それらが基本理念に繋がっていく中で、体験を止められたらいけないので、「「やりたい！」を動かす」という言葉が非常に良いということと、それをもっと止めないところまでいかせよう、という話がありました。こういう挑戦や出会い・繋がりが地域全体を繋ぐというところから、うまく基本理念にまとまっているのではないかという意見でございました。以上でございます。

○部長　ありがとうございました。最後に４班、お願いします。

○４班　４班では、基本理念についてはあまり話し合えず、主に振り返りから大切にしたいことを話し合いました。制限された普段の状況から新たに体験すること、行動してみること、チャレンジしてみることと、大人とこども、大人とこども同士・親同士・こども同士などいろんな交流、この二つ「チャレンジと交流」を通して、新たに自分

らしさややってみたいことを発見できるのではないかと思いました。これが今の基本理念にさしかかってくるのかなというところまでまとまりました。４班からは以上です。

コメント

○部長　ありがとうございました。それでは各班の発表内容に対しまして、学識委員の方からコメントを頂戴したいと思います。

○学識委員　皆さん発表ありがとうございました。あの短い時間の中で非常によく話され、よくまとめられ、発表も皆さんすごくまとまっていて素晴らしいなと思いました。すごく大事な観点がどの班もあったなと思っています。

飯田らしさということももちろんそうですし、どこにでもあるような施設ではなく、飯田だからできることや、飯田の皆さんが本当に実現したいことを大切にしてほしいなと思います。また、２班で挙がった「大人の視点での目標なのか、こどものやりたいことなのか」というのは本当に大切なことですので、こどものためと言いつつ大人が目標設定してしまうのは、よくある話なので、そうならないための議論はすごく大事だと思います。さらに、年代を超えた人と人との繋がりという言葉が、３班・４班から出てきましたが、そういうただ何かをやるための場所ではなく、そこから繋がりや交流が生まれて、また新たな挑戦ができていくというのは本当に素晴らしいと思いました。

先日、ニュースでやっていましたけど、ＰＩＳＡ（国際学力調査）という世界の学力調査で日本が国語読解力・科学・数学の全ての分野においてＯＥＣＤ（加盟国中）で一位を取ったということで、史上初らしいんですけれども。一方で、こどもたちが「勉強が好き」と答えた割合はすごく低いという結果がでていて、日本のこどもは勉強めちゃくちゃできるけど勉強が嫌いっていう状況があって、それは 15 歳時点なんですけど。大学生の勉強時間が各国に比べて非常に少なくなってきていて、これって何でだろうな、と思うわけですよね。やっぱり、やらされてしまったりだとか、日本はこどもたちがものすごく努力をしていて、素晴らしい能力を持っていると思うんですけれども、「やりたい」「楽しい」という気持ちをないがしろにしてきた結果の一つなんじゃないかなと思っております。まさに飯田市の新しい取り組みというのが、日本の中でも必要とされていくべきことだと思いますので、ぜひ活発に議論していただきたいと思います。ありがとうございます。

○部長　ありがとうございました。続いてお願いします。

○学識委員　まず、この短時間の議論の中で皆さんの時間厳守する意識の高さに大変感動いたしました。私も時間を無駄にしないように簡潔にコメントをさせていただきます。

まず、本日提示された基本理念の案に対して、４つのグループから大変肯定的な反応があったというのが最初の印象です。全体５回の検討会議の第３回の冒頭でこういった基本理念の案が示されて、それが議論されることの意味は、今後の未来だとか場所だとかより具体的な議論に移っていく際に、この基本理念が皆さんの「参照先」になるということです。これってどうなんだろう、どんな場所にするんだろうと考えるときに、あのとき自分たちが良いと思った基本理念はこうだったよね、もしちょっと違和感があれば最終的に変えていけばいいことだと思いますし、これが今後の議論の参照先となりながら、最終的にこれが案ではなく、最終決定されていくのがこの基本理念の役割かなと思います。

今後の議論の中で、『「やりたい！」が動き出す～楽しいから広がる　挑戦・体験・であい・つながり～』が実現する未来ってどんなものだろう、場所ってどんなものだろうと考えていくと、より良い議論の方向性が定まったなかで、深い議論がされていくのかなと思いました。以上です。

---

(2) 場所の役割、対象・状況・空間などについて

○部長　ありがとうございました。各班の思いと学識委員のお二人からのコメントが共有できたと思います。

それでは二つ目のテーマ「場所の役割、対象・状況・空間など」について意見交換をしていただきます。時間は 55 分間です。時間になりましたら職員が合図をいたします。それでは、グループワークを始めてください。

（グループワーク実施）

グループワーク発表

○部長　それでは発表をお願いします。先ほどは１班からでしたけど、今回は４班から発表をお願いします。

○４班　４班からは、皆さんからたくさんの具体的な案を出していただきました。
まず「どんな場所にしたいか」については、まず、「やりたいことができること」

が前提として大切だと思いました。そこから波及して、「新しいことや新しい人と関われる」「いろんな人との繋がりを持つことができる」「やりたいことに制限がない」という三つのことが大切なのではないかと考えました。

次に「誰にどのように過ごしてもらいたいか、どんな状況になってもらいたいか」に関しては、多様な世代と関わり刺激し合える機会を作ってほしい、親同士が関われる場所を作ってほしい、お互いに安心・尊重し合える環境を作りたい、新しい体験や刺激を通して「また来たい」と思えるようになってほしい、友達を作ってほしい、という意見が出ました。

そのために「自然に触れられる」「屋内外に出られる」「広々とした空間やこじんまりとした空間」など具体的にいろいろ出していただいたのですが、要するに多様な目的・ニーズに応じた空間・イベント・人や物が必要なのではないかと考えました。４班からは以上です。

〇部長　ありがとうございました。次に３班、お願いします。

〇３班　それでは３班の発表をします。
「どんな場所にしたいか」ということで、まず一番大事な機能として安心・安全である、空調が整った環境やプレイルームがあったり、小さなこどもが安心して遊べるところがまず絶対に必要だよね、という意見が出ました。

その前提のもとに、空間として居心地の良い場所にしたいという話がありました。人々が来た時に孤立しなかったり、気を使わなかったり、大きな声を出して遊んでも問題なかったり。それから、こどものやりたいということを絶対守っていくこととともに、誰かのクッションになるような、ありのままを受け止められる場所にしていきたいという話がありました。また、いろんな人が来て、ふらっと立ち寄れるような雰囲気の場所にしたいという話もありました。

この場所的には旧公民館という、施設の中と、中央公園、プール跡地の屋外との間を繋ぐような、中間的な空間があってもいいのではないか。例えば屋根はあるけども、下は土になっているような場、雰囲気の場所があってもいいのではないかという話がありあました。

先ほど、大きな声を出してもいいよね、という話をしたのですが、こどもたちが「わいわい騒ぐ」ではなく、それが「賑わい」になる形にあげることで、こどもから十分

年のいった大人まで全ての人が来やすい、特に高校生も来やすい場所にしていきたいなということで、昼から夜まで集まれるようなところになることも想定しています。

具体的なものとしては、小さなこどもの遊具があったり、土の上で思い切り遊べたり、焼き芋や焚き火ができたり、水遊びができたり、プール跡地を活かした半地下のようなところがあったりと多様的な場所があり、さらには空を飛べるような体験ができてもいいんじゃないかという話がでています。

そして、今時的に言うと、アーバンスポーツができるような施設があっても良いのではないかなどが挙がりました。そういうところを核に持ってくることによって、飯田動物園から桜並木へと繋がる中間的な位置として位置づけられるのではないかということです。

最後に、この施設は、作ってあとは運営していくだけではなくて、どんどん育てていけるような、「こんなものを作って欲しい！」というようなこどもたちの意見を取り込めるようにして、アップデートしてくれるような施設にしていきたい、というふうにまとめました。以上でございます。

○部長　ありがとうございました。続いて２班、お願いします。

○２班　２班の発表をさせていただきます。

まず、「どんな場所であれば良いか」というところで、気楽に行けて、ふらっと誰でも立ち寄れる場所で、その場所で友達だったり・知り合いになれること、多世代の交流、自分の親以外のいろんな大人・面白い大人と出会って、そこからいろんなことを考えたり挑戦したりする意欲が湧く、そんな役割があると良いという意見が出ました。

また基本理念の案にもあるように、「やりたい！」が「楽しい」に繋がって、そこからいろんな繋がりだったり、出会い・体験だったり、こどもが「楽しかった」ということを自覚して、またもう一度来たいと思えるような役割があると良いかなという意見も出ました。

状況という部分では、まず年齢制限については一番多く議論したんですけど、何歳以下でなければ入れないという制限を設けることによって、利用できないこどもや親子が出ないように、うまく空間を使っていろんな世代が使える場所にしたいということです。また、ルールを決めて「何々しちゃ駄目だよ」とか、「これ禁止ですよ」というように、ルールが厳しくて全然楽しくないようなものではなくて、うまく大人が

ルールを作って、「こうしていいんだよ」とか、例えば、「人が困らないようにどうやって遊べばいい？」というように問いかけながら、こどもたちでルールを考えていけるような、禁止・禁止とならないようにする、という意見が出ました。
あとは、全身を使ったり、夢中になって遊べるとか、基本的に楽しい場所であって、みんなが笑顔になるという状況という意見が出ました。

そのためには、「命や大けがに繋がらなければ何でもしていいよ」というルールはしっかりあるけれども、基本的には自由に遊べる場所であったらいいなという意見が出ました。ただし、怪我をしたり火傷をしたり、刃物を使ったときに、どこに責任の所在があるのかを明確にして、何か登録制であったりとか、最初に「こういうことが可能性としてあります」と説明して、例えば「火遊びをするので火傷する可能性がありますよ」「擦り傷作る可能性もありますよ」など。それでも良ければ一緒に遊びましょう、と一筆書いてもらってから遊べると、よりこの空間・施設の自由度が上がるのではないかという意見も出ました。

あとは、ここで育った中学生・高校生、その先の大学生が帰ってきて、スタッフとしてこの施設でまた一緒にこどもたちと遊びたいなと思えるような、そんな世代が繋がっていく施設になると良いかなという意見も出ました。２班からは以上です。

〇部長　ありがとうございました。では最後に１班、お願いします。

〇１班　１班です。
最初のテーマの「どんな場所であるか」に関して、場所としての背景、ハード面でいきますと、まず安全であることが大事なところであるという話になりました。ある程度大人が目を離していても大丈夫で、ある程度ルールもあって、安全性が保たれた上でこどもたちが遊べるということが一つ大切かなと思いました。

それから、天候というところで、皆さんご存じの通り最近は暑くなったり寒くなったり、そもそも遊びに行けないということ自体も増えてきてしまっているので、そのようなものにも対応できる場であってほしいという意見も出ました。

さらに、この施設だけで遊びが完結する必要は全くないので、様々な拠点、丘の上から出ていくとか、丘の上の中で探索するといような拠点となる場所であってほしいと思いました。

そういった場の中で、こどもたちが「自分のやりたい！」を見つける。また「やり

たい！」がまだ見つけられていない子は、他のこどもたちが「やりたい！」を謳歌しているのを見て、これ面白そう！という発想を得て、そこに参加していけるような、「やりたい！」に繋がる場であってほしい。その中で人とのコミュニケーションをとっていって、コミュニティが形成されていくような流れがあってくれればといいのかなと思いました。

加えて飯田市は、皆さんご存じの通り、自然というのは一つ大きなところですし、今から都会に行っていろんな建物だとか娯楽はあるけど、自然は一度失ったら取り戻せないものなので、そういうところも楽しみながらやっていける場所であると良いのかなと思いました。

二つ目、「誰にどのような楽しみ方をしてほしいか」という話では、まずこどもたちが全力で遊べる場であってほしいなというところ、こどもたちだけではなくて、そこに大人も参加していけるような、何かを縛る立場ではなくて、対等に一緒に遊ぶ立場として、いろんな人がオープンに遊んでいけたらいいかなと思いました。
その中で、大人であろうとこどもであろうと、自分で何かをしていくという経験を積んでいける場であって欲しいと思いました。

加えて、地域や、保護者目線の親だったり周囲の人たちが、ゆったり見守ることができ、その人たちにとっても退屈しない環境。そしてそのコミュニティにこどもと大人が参加して終わりなのではなくて、地域の方々も足を運んでくれるような場所であると良いのかなと。そういった繋がりができていくと良いのかなという話になりました。

最後に、「そのための工夫」はという話ですけど、ハード面で言って、まずは安全性が保たれていること、ルールができていること、それからその場にとりあえず行けば、あの情報がある、今日はあそこでこれをやっている、という何かしらのインフォメーションを得られるところであること。願わくば、何かこどもたちがそこから出ていけるような交通手段があったらいいと思います。さっきの情報に繋がることだと具体的に毎週何曜日は何をやっていますよ、というような定例的な活動があってもいいんじゃないかという話。そして、その中でいろんな人が関わって、最初に参加したこどもたちが後から来たこどもたちに教えてあげる、地域の大人が得意なことを活かしてこどもたちに遊び方や「こんな遊びもあるよ」という提案をしてあげられる、地域全体で関わっていけるような、先ほど他の班の発表からもありましたけど、一回作って終わりではなくて、完成の未完成品でしたっけ、ずっと育てていけるようなものになっていくといいのかな、という話でした。すいません長くなりましたが１班からは

以上です。

---

(3) コメント

○部長　ありがとうございました。それでは各班の発表内容に対しまして、学識委員のお二人からコメントを頂戴したいと思います。

○学識委員　発表ありがとうございました。こういった議論をいろいろなところで私も参加したりとか、見させていただいたりしているんですけれども、こういったグループワークをすると大体、ありがちなのが“ｈａｖｅ”に偏ってしまう。「これができる」、例えば何か「卓球できる場所が欲しい」とか「お茶飲める場所が欲しい」とか、もちろんそれも楽しいんですけれども、そういった議論に偏りがちなんですが、皆さんのどの発表を聞いても、「何のための場所なんだろう」とか「どういうことを目指すんだろう」という話をたくさんされていて、素晴らしいなと思いました。

いくつかの班から出ていたように、「みんなで育てていくんだ」とか「こどもだけでなく大人も参加していくんだ」という話が出ていましたが、これほど熱く議論できる市民の皆さんがいらっしゃるということで、できた後もお任せして利用するだけでなく、本当にみんなで育てていく施設になると面白いのではないかと思いました。

その中で一つ思ったこととして、みんなで作っていくってすごく大事なんですが、それが何かというところで喜びとか、その場の果実みたいなものをみんなで分かち合うということもあると思うんですけれども、それとともにこの責任を少しずつ分かち合うみたいなことだと思うんです。施設があって、例えば怪我をしました。今だと、職員のせいとか、親のせいとか、誰か一人とか二人ですね、すごく重い責任がいってしまうと、学校もそうなんですけれども、そうなるとどうしても、人間重い責任を一人で背負というのはすごくつらいので、そういったことが起きないようにする。起きる確率はすごく低いし、誰か一人の責任ではないんですけれども、そうならないように、どんどん縛ってしまうという繰り返しが今の社会かなと。

こどもたちの、そこから学ぶこと、育つことよりも、やっぱりその責任を追い切れないというふうになってしまっていると思うので、誰かに負わせるのではなくて、みんなが少しずつ背負っていくと。それは、例えばですですが、自分のこどもを連れて来ていても、他の子が危なそうだったらちょっと声をかけてあげるとか、そういうことかもしれないですし、何か問題があったときに犯人捜しをするのではなくて、みんなで「どうしたらいいんだろう」ということを話し合っていくことかもしれないんですけれども、そういった関わりがきっとできる皆さんだと思いますし、そうなることでより「こどもたちにとって、そこに来る大人にとってどんな施設が望ましいんだろ

う」という本質的な議論ができてくるのではないかなと思います。ぜひ今日のこの熱気を、わくわくした熱気を、開設後も皆さんや他の市民の皆さんと一緒に施設を育てていってほしいな、と僕自身も横で聞いていて「面白そうだな」「楽しそうだな」とか「僕だったらこんなことやりたいな」と考えていたので、ぜひこれからも関わっていただけるといいのではないかなというふうにと思いました。ありがとうございます。

○部長　ありがとうございました。続いてお願いいたします。

○学識委員　どうもお疲れ様でした。素晴らしい、聞いていてわくわくするような議論だったと思います。私はアーバンデザイン・空間デザインを専門としていますので、ちょっとその視点から感想を述べさせていただきます。

皆さんの議論を聞いていて、非常に印象に残ったご発言として、「永久に未完成、永久に作り続ける場」のような意見がありました。今の発表を聞いていましたら、３班の発表の中にも同様の考え方が入っていたと思います。これが基本理念の「やりたいが動き出す」という考え方と、それから「空間は永久に未完成」というのが実に親和性が高く、すごく腑に落ちたご発言だったというのがあります。

また、この親子交流施設というのは、飯田市の新文化会館の施設の中の一つとして将来的に位置づけられていくことだと思います。新文化会館の基本理念の中に「感動の飯田ひろば」という「ひろば」という言葉が使われているんですね。そのときの議論のときに、少しちょっと自分の専門分野のお話をさせていただいたんですけれども、西欧の広場というのは、最初から広場という空間が定義されていて、そこで人が色々な活動する。それに対して、日本というのは元々広場というものがなくて、要は人の利用が広場という場所を作っていく。例えば、橋のたもとであるとか神社の境内であるとか、そこが広場的に使われることによって、空間が広場化される。ということをお話しさせていただきました。

すなわち活動が場所を決めていく。まさに今日皆さんが議論されていた、そういった状況だとかを空間に置き換えていくときに、まさに「利用が場所を決めていく」「場所は永遠に未完成」すなわち「やりたいが空間を作っていく」というあたりが、皆さんが共通に持っている思いなのかなと感じました。こどもの遊びというものに焦点を当てながら、施設を超えた「場」を作っていこうという皆さんの思いが非常に伝わってきましたし、そのことが今度の第４回の運営・利用がどうあるべきかという議論にも非常に繋がっていくと感じました。基本理念があって、今日の皆さんの議論があって、次回第４回の運営・利用の議論ということで、皆さんの活発な意見交換によって非常に素晴らしい市民会議が進んでいるという感想を持ちました。以上です。

○部長　ありがとうございました。最後に市長からお願いします。

○市長　長時間のグループワーク、ありがとうございました。長時間といいますか、足りなかったかもしれませんね。それぞれのグループワークや発表をお聞きしていて、僕もすごくわくわくしましたし、どういう空間をこれから作っていけるのかなと思いました。有識者お二人のコメントも示唆に富んでいて、これからの議論にすごく大事なコメントをつけていただいたと思っています。

今日の基本理念のたたき台の中に「挑戦」という言葉がありますが、これは行政にとってもすごい挑戦になるなと思って聞いていました。さっきの責任の話やあるいは制限の話というのは、大体最後は行政が「ここまで」と言ってしまうことになるんですけれども、それをどこまで広げられるのか、取り払うことができるのか。これが我々行政側にとっては挑戦になると思いますし、その挑戦がどこまでいけるのか、この空間の広がりが、皆さんのこのような議論した内容をちゃんと形にする空間にできるかというところにかかっている。我々の方にすごくそれはかかっているような気もします。ですので、皆さんの議論が実現するよう、我々も今までの行政の考え方や今あるルールとかそういうものに挑戦していかなければならないなと思ってお話を聞いておりました。ぜひその挑戦を皆さんに応援していただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

○部長　ありがとうございました。本日、皆さんから出していただいた意見を私どもの方で整理をいたしまして、第４回の市民会議でお示しをさせていただければと思います。また、次回は、どのようにしたらみんなに長く愛されるか、運営や利用という面についてまた意見交換をさせていただきますので、ぜひ考えてきていただけるとありがたいと思います。最後に事務連絡をさせていただきます。

４　事務連絡

○課長　限られた時間の中で積極的に取り組んでくださり、本当にありがとうございました。

次回の第４回市民会議は、11 月 12 日（木）18 時から飯田市役所Ｃ棟３階で開催いたします。本日この後、開催通知をお配りさせていただきますので、お受け取りいただきご確認いただきたいと思います。

また、アンケート用紙をお配りしております。本日の感想をご記入いただきたいと

思います。会議終了後記入していただいて提出いただくか、期日までにご提出をお願いいたします。受付にて交通手段記入用紙をお渡しした皆様は、本日の交通手段をご記入願います。アンケート・交通手段記入用紙を記入された方は、お帰りの際に出入口にカゴが用意してありますで、入れてお帰りください。本日はありがとうございました。

５　閉会

○部長　皆さんのご協力で、時間内に収めることができました。ありがとうございました。それでは以上をもちまして、第３回思いきり遊ぶ親子交流施設基本構想検討市民会議を閉会させていただきます。皆様、どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。